

小林奈保子さん（田村市復興応援隊）

■ 活動内容

田村市の復興支援員（「[田村市復興応援隊](#)」）として、都路町を拠点に、地域活動支援や地域の情報発信をしています。特に地域活動支援に力を入れており、「〇〇してみたい！」という住民の思い＝「復興のタネ」の実現に向けてサポートしたり、新たな復興のタネが生まれるよう、私たちが外部の研修などで学んだことを住民の皆様を紹介したりしています。他にも、最近は市外・県外の大学生などの訪問者から「ボランティアや視察・ツアーをしたい。」という声が増えており、私たちは訪問者と地域をつなぐ窓口もしています。

■ 活動を始めたきっかけ

私は田村市出身ですが、元々、地元に関心があったわけではなく、大学時代から田村市外に出ていました。大学時代には、ボランティアに夢中になり、ボランティア団体の立上げに関わったりしました。

大学卒業後は郡山市の企業で働いていましたが、その頃に震災が起きました。震災直後、田村市に戻ろうか悩みましたが、田村市にいる親に反対され、しばらくは郡山市にいました。

平成25年に、知人のいるNPO法人「[コースター](#)」が復興支援員制度で田村市復興応援隊を発足する際、声をかけられました。都路町には友達もいましたし、田村市のために自分にできることがあればという想いで、平成25年9月から応援隊に加わりました。



「ボランティアに夢中になったのは、奉仕の精神からではなく、楽しかったからです。今も同じ気持ちです。」ときっかけを語る小林さん



小林さんの特に思い出に残ったとされる、田村市内の小中学生に農業体験や地元野菜を使った郷土料理を学んでもらう企画「都路ふるさと塾」の様子

復興のパイオニア（復興女子編）

■ 活動を通じて思うこと

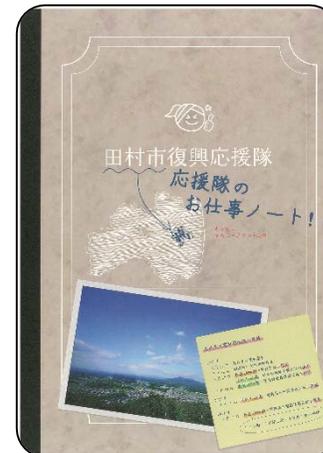
田村市復興応援隊の良さは、隊員に任せられる範囲が広く、自由に活動しやすいことです。一方、どこまで活動して良いのか迷うこともあります。支援してしまったために、かえって地域内で不公平感が生まれてしまい、良い結果にならなかったという反省例もありました。都路町では「長」を大事にする文化がありますが、長の方々は地元をよく把握されているため、長の方々の意見を参考にさせてもらったりして、地域コミュニティが崩れないような活動を心がけています。

外部の支援者と地域をつなぐ際には、直接支援する以上に配慮しています。住民、外部の支援者、私たちの3者で、復興の理想像やスピード感は異なりますし、同じ言葉を発していても、捉えられ方が一致しないことは度々あります。この点を意識していないと、小さな誤解が積み重なって失敗しがちです。外部の支援者は熱意のある方々ばかりで、大変ありがたい存在なので、誤解が原因で関係が途絶えてしまわないよう、私たちが間に入って、少しでも良い関係が生まれるよう努めています。逆に、私たちが離れても関係が自発的に続いているとうれしいです。

私たちが目指していることは、住民の帰還促進ではなく、住民の皆様「田村は良いところだ。住んでいて幸せだ。」と思ってもらえることです。このためには、都路町だけではなく田村市全体を盛り上げていくことが必要です。復興だけでなく町づくりにもつながるような、田村市に根付いた活動を続けていきたいです。



都路町の賑わいを取り戻したいという想いで平成28年度の新企画として始まった、福島大学災害ボランティアセンターによる「学生DASH村」に、田村市復興応援隊もパートナーとして参加中



田村市の魅力や応援隊の活動が満載の冊子「応援隊のお仕事ノート！」（左）とイメージキャラクター「タムコちゃん」（上）